



自主学習の手引き

3～6年生版

自学とは：自分の課題は何かを考え、その課題を解決するために自分でやることを決め、取り組む学習

自学には2つの方法があります。

- ①基本の学習→授業でわからなかったところや難しかった問題をもう一度やってみる
- ②発展・探究の学習→授業で疑問に思ったことを自分で調べたり、難しい問題にチャレンジしたりする

ぜひ、次の学年に向けてのレベルアップのために取り組んでみて下さい。

自主学習の取り組み方 ～ めざせ自学達人 ～

- ①授業でわからなかったこと、疑問に思ったこと、もっと知りたいことなどから今日の課題を考える。(授業以外でもOK)「～だから〇〇をする」
- ②めあてをきめる →(例：授業で学んだことを学び直したい 読み取る力をつけたい)
- ③やることが決まったら、自主学習に取り組む
- ④学習をふり返る

自学ノートへの書き方

①なぜこの自学をしようと思ったのか

調べようと思、た理由
音楽の授業で雅楽のことを知り、
どんな楽器が使われているか気になったから。

②めあて

「雅楽では、どんな楽器が使われているのかな？」

③取り組んだこと

箏(しやう) 邦楽器で唯一和音を奏する楽器。
竽(あかりさ) 主旋律を奏する。音が大きい。
高麗笛、神楽笛、尺八、三味線の曲目によつて、子笛の笛を使い分ける。長さや太さは異なるが、構造は同じ。

④ふり返り

雅楽には、上のやつ以外に多種類の楽器が使われている。どんな音がするのかわかりたい。
時人でも普段目にはない楽器がある。テマがよい！

調べようと思、た理由
国語で柿山伏の勉強をしたとき、教科書に「狂言には、鬼や神様などの役がある。」と書かれていたから。

「狂言には、どんな役があるのかな？」

***登場人物**

シテ(仕手) 主役を務める人	主人 太朗冠者 大名 出家 亭主 共
アト(挨拶) シテの相手役	素破 歸
オモ アトが集団で登場する場合、統率する一番目のアト。	立衆物の 登場人物

ふり返り
柿山伏や附子に出た登場人物の他にも太朗冠者や素破の登場人物がいることを知りました。



めあてとそれに合った自学の例

<p><漢字を覚えたい></p> <ul style="list-style-type: none"> • ひらがなのページを見て漢字を書く • 音読する 	<p><計算が速くできるようになりたい></p> <ul style="list-style-type: none"> • 計算ドリルの問題をタイムを計ってする (別の日のタイムと比べるとやる気につながる) • 教科書の問題をする
<p><読み取る力をつけたい></p> <ul style="list-style-type: none"> • 段落の関係を図にする • 人物の関係を図にする • 叙述(教科書の言葉)から登場人物のどんな気持ちかわかるのか書き込む • 筆者が伝えたいことは何で、それに対して自分はどう考えるのかを書く 	<p><外国語を話せるようになりたい></p> <ul style="list-style-type: none"> • 授業で学んだ言い方を使ってお家の人にインタビューする • 学んだ言い方をお家の人に聞いてもらう
<p><文章力をつけたい></p> <ul style="list-style-type: none"> • 作文、感想文、意見文、説明文などを書く • 本や新聞を読んで要約する 	<p><授業で学んだことがわかっているのか、できるようになったのか確認したい></p> <ul style="list-style-type: none"> • 教科書や計算ドリルの問題をする(算) • 実験方法や注意点、器具の使い方などを書く(理) • 課題の対するまとめを自分の言葉で書く(理・社)
<p><語彙力(言葉の力)をつけたい></p> <ul style="list-style-type: none"> • 意味調べ (国語以外の教科で使う言葉も効果あり) • 音読 • 読書 • 新聞を読む • 言葉の学習(熟語集め、敬語、似た漢字集め) 	<p><授業で学んだことを整理したい></p> <ul style="list-style-type: none"> • 授業で書いたノートをわかりやすく書き直す(国・算・理・社) • 物事の関係性を図・表・絵を使ってまとめる(理・社) • 自分で年表を作って歴史の流れをまとめる(社) • 歴史上の人物が、いつの時代に、何をしたか、他の人物との関係をまとめる(社) • 自学ノートに歴史新聞を作ってみる(社)
<p><説明する力をつけたい></p> <ul style="list-style-type: none"> • どのように計算したのかを簡条書きや文章を使って説明する • 考えの理由を書く (なぜその式にしたのかなど) • 本や新聞の資料からどんなことがわかるのか、それを受けて自分はどう考えるのかを書く 	<p><授業でしたことをもっと深く学びたい></p> <ul style="list-style-type: none"> • 授業で学んでいる物語文と同じ作者の本を読む(国) • 同じ作者の本を読んで共通点を見つける(国) • 実験で行ったことが日常生活の中でのないか探し、体験する(理)



どの学習でも、わかったこと、感じたことを書くと次の学習に生かすことができます。
そして、自学はやっただけ**力がつきます**。机の前に座るくせをつけ、毎日続けてみて下さい。